

# 「世話役、減った時代反映? 当然の親心?」

## わが子いかが 代理お見合い

晩婚や結婚しない男女が増える中、子どもも代わって親が相手を探す「代理お見合い」が、九州でブームとなっている。「結婚で自由が制限される」と考えたり、家事を親に依存して同居するパラサイト・シングルが増えたりして結婚を遅らせる若者が多くなっている中での特異現象。「結婚は本人の問題では」という声の一方で、「当然の親心」という評価もあるようだ。

(編集委員・田中良治)

「私はおしゃべりですが娘は穏やかです」「趣味は読書? 息子と同じですね」。六月下旬、福岡県久留米市内のホテルに設けられた見合い会場が真を直せ合い、趣味や仕事について熱く語り合ったのは、独身男女ではなく、五十〜六十代の親たちだった。

福岡や佐賀の結婚相談業者や市民らがつくる「宇佐山比良会」が主催した「親の目交談会」。同倶楽部メンバーは二年前から交流会を開いており、この日は、県内から三十八人が参加した。

交流会では「息子の代理」と「娘の代理」に分かれて子どもを紹介し、互いの希望が合えば子どもに見合いを勧める。これまで延べ三百人が参加し、二十五組がゴールインした。教師の娘も持つ同市の主婦のBは、「何度もお見合いしたけどうまくいかなかった。でも、どこかで縁があるか分からないから」と、熱心に話をPRしていた。

九州では、宇佐山比良会等の活動が目立っていたが、今年になって動きが活発化している。六年前、業界で初めて代理見合いを始め、東京、京都などで二千八百回を開き、通算四千人を集めた実力派のオプティス・アン(札幌市)や、昨年設立された「九電エネットプロデュ

## 九州でブーム 業者参入も相次ぐ

「ス」(福岡市)が七月に相次いで参入を予定。対抗力をつけようと宇佐山比良会も既に、特定非営利活動法人(NPO法人)化している。

内閣府の国民生活白書(二〇〇五年版)によると、初婚の平均年齢は男性が一九八〇年の二七・八歳から〇四年の二九・六歳に、同じく女性は二五・二歳から二七・八歳に上がった。また、二〇〇〇年の生涯未婚率は男性二・三%、女性五・八%。男性は二十年前の約五倍、競争にさらされている結婚相談業者が親の関心に脅かされて、新サービスでの差別化を目指しているのだ。

「当事者には「親が気に入った人なので安心」という意見もある(「倶楽部」という代理見合い)。しかし、否定的な意見も皆無ではない。



ない。「パラサイト・シングルの時代」(筑摩書房)などの著書がある東京学芸大の山田昌弘教授は、「一人暮らしをさせれば子どもは誰かと一緒になろうと頑張るだろうに、親は突き放せない。親離れ、子離れできず、自立できない」と指摘する。

「一方、なぜ結婚できないのか」(すばる舎)を著した菊地正憲さんは、「地域や職場で相手を紹介する世話好きが減るなど人間関係が希薄化。社会のサポートシステムがなくなっている」と若者を取り巻く環境を分析。「老後を考えれば、時代の変化を反映した取り組み」と評価する。

日本青年館結婚相談所(東京)の板本洋子所長は、「まずは親子で「結婚とは何か」について話し合ってみれば」とアドバイスしている。



同じ気持ちに、参加した親たちは、すぐに打ち解け熱心に情報収集する。6月下旬、福岡県久留米市のホテル